

しらかわの 身近な文化財

第十五話
天道念仏

天道念仏は、地域の夏の風物詩のひとつです。

文化11年（1814）の記録である「奥州白川風俗問答」によれば、農村では6月に雨が降り続いたとき、晴天を願って神社に参拝し、大勢で鉦や太鼓を鳴らして一日中念仏を唱え、輪になってめぐりながら天道（太陽の正常な運行）を祈ったといい、これらを天道念仏と称しています。

天候の安定は、農作物の収穫にとって何より重要です。農村ではこうした行事を代々継承しながら豊作を、ひいては村の繁栄を祈念してきました。

天道念仏は、福島県内では本市のほか、郡山市・矢吹町・小野町・鮫川村・古殿町・浅川町



▲関辺のさんじもさ踊
毎年7月の第一日曜日に関辺の八幡神社にて行われます。



▲東板倉の阿弥陀様（天道念仏）
毎年6月に板倉の集会場にて行われます。阿弥陀様（板碑）に拝礼し、太鼓を叩きます。

などでもみられます。同様の信仰は関東地方にもみられることから、元は関東から伝わってきたという説もあります。

中通り南部では、天道念仏に踊りをまじえた天道念仏踊が伝えられています。代表的な例は、福島県指定文化財になっている関辺のさんじもさ踊です。

他にも、表郷河東田のテント念仏や東板倉の阿弥陀様（天道念仏）などが今も伝えられています。これらは踊りを伴わない形で、輪になって太鼓を打ち鳴らすものです。

こうした夏のお祭りも、地域の歴史を物語る大切な文化財といえます。

問文化財課 ☎ 2310

地域で輝く卒業生



高橋 治生 さん
(令和4年度 電気科卒)
▷勤務先
東陽電気工事(株)

私は、今年の4月から東陽電気工事(株)に入社しました。学校生活を振り返り、資格取得や電気の基礎など学べたことが今の成長に繋がっていると実感しています。電気業界では、仕事に必要な資格が多々ありますが「第二種電気工事士」という国家資格を取得した状態で社会人のスタートをされたことが非常に大きく感じます。資格取得には、授業や放課後の課外活動などサポートが充実しており、安心して学べる環境が整っていました。

社会人となり、先輩方から「様々な視点から物事を見ることが重要だ」とご指導をいただきます。高校で基礎を習得したことで、現場では状況を冷静かつ正確に把握し柔軟に対応できていると感じます。今はまだ成功と失敗を繰り返す日々ですが、当社では「安心して失敗できる環境」がコンセプトの研修棟が完備されていますので、恵まれた環境の中、成長できるよう精一杯頑張ります。

新生 白河実業 Vol. 4

問白河実業高校 ☎ 1176

★各科紹介② 電気科

電気科では、電気に関する基本的知識や、技術技能の習得に力を入れています。実習では電気技術者に欠かせない体験的な内容を多く取り入れています。多くの生徒が国家資格に挑戦し「第一種、第二種電気工事士試験」に合格しています。資格をいかせる各種電力会社、電気工事関連会社、電気保全関連会社などの就職に有利であると同時に、地元企業にも多くの生徒が就職しています。



地元の電気工事関係者との交流事業の様子